

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の確かな学力の定着と学習意欲の向上につながる組織的な授業改善に取り組む。 ②国際理解教育を推進し、多様な価値観を受容する力を育む。 ③生徒会活動・学校行事等の活性化に取り組み、自己有用感やリーダーシップを育む。	①新学習指導要領移行に伴い円滑な運営をはかり、指導と評価の見直しに取り組む。 ・「主体的・対話的で深い学び」を図る授業改善を組織的に行う。 ②様々な機会を通して自己理解を深め、他者との協働的な学びを充実させる。 ③学校行事・委員会活動・生徒会活動を活性化するとともに、生徒主体の活動を増やす。	①新学習指導要領における新しい指導と評価の方法に基づき、指導と評価の計画を単位ごとに作成し、年間通してすべての単元を完成させる。 ・「主体的・対話的で深い学び」を実践のための授業研究を進める。 ・年に2回授業研究期間及び研究協議を開催し、授業改善を進めたい。 ②「総合的な探究の時間」や留学生との交流会等を適切に開催し、生徒の心の変容を促す。 ③生徒会執行部と各委員会の委員長との合同会議を開催し、行事・委員会の活性化を促す。	①新学習指導要領における新しい指導と評価の方法に基づき、指導と評価の計画に基づき授業を進めることができたか。 ・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を通して、生徒による授業評価等から授業改善がみられたか。 ・生徒による授業評価等で「確かな学力」及び「学習意欲の向上」の評価が上昇したか。 ②生徒の振り返りシート等の記載に心の変容が見られたか。 ③会議の開催状況とそれに伴う活動実績（生徒の満足度等）があったか。	①新学習指導要領における新しい指導と評価の方法に基づく指導と評価の計画を単位ごとに作成し、完成することができた。 ・授業研修会を2回実施し、結果を各教科にフィードバックを行うことで授業改善を行うことができた。 ・生徒による授業評価における「学習意欲の向上」の評価は「よい」とする回答が2ポイント上昇して85%となった。 ②生徒の振り返りシート等に多様性における心の変容が見られたとする回答が93%であった。 ③今年度は合同会議を開催できなかった。	①インクルーシブ教育に関連した学校設定科目の設定や評価方法などについての検討を進める。 ・今年度1学年生徒に授業端末を活用する取組が行われたことも踏まえ引き続き授業改善に取り組んでいく。 ・引き続き生徒にとって取組みやすい授業づくりを教科で組織的に行うように企画し、授業改善を進めていく。 ②「総合的な探究の時間」の授業を企画運営し、生徒にとって取組みやすい学びを提供していく。 ③行事の活性化、生徒主体の活動を増やすために合同会議を開催する。生徒会執行部を中心に目標設定を行う。	①「単元と指導の計画」は作って終わりではないので、マネジメントしやすい形にすべきである。 ②ポイントの改善は評価できる。引き続き取り組んでほしい。	①新学習指導要領の実施に向けた取り組みは今年度分については完成させることができた。インクルーシブ教育との関連において、新たな視点で取り組みが必要である。 ②総合的な探究の時間から生徒の変容はみられたが、内容としては十分とは言えない。 ③生徒主体の取り組みを進めることはできたが、運営については改善の余地が残った。	①インクルーシブ教育の視点から、カリキュラムの見直しを行う。 ・授業改善に向けた取り組みとして他校の実践例を収集し、本校の実情にあった評価方法の検討を行う。 ②総合的な探究の時間についてインクルーシブ教育の視点を踏まえて検討する。 ③合同会議の開催を含めて、生徒主体の運営ができるよう指導する。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒とのコミュニケーションの充実を図り、きめ細かく粘り強い生活指導・生徒支援を組織的に行う。 ②部活動の活性化に取り組む、責任感や自己肯定感を育む。	①生徒一人ひとりが規範意識を持ち、自立に向けた意思決定と、正しい行動様式を選択できるよう自己指導力を高め、現在および将来における自己実現を図る。 ②入部率40%以上を目指す。また、入部後の退部者を減らす。 ・生徒が活動に取り組むやすい環境を整える。	①日常的な生徒への声かけを徹底するとともに、分かりやすく丁寧に校則等の理解を図る。また、インクルーシブの観点から視覚的な指示表示によるルール等の整備を行う。また、支援についての研修を行う。 ②部活動見学週間に各部の説明会や体験会を開催する。部活動総点検の結果を活かし活動環境を整えていく。 ・部・同好会設立に関する生徒会会則の見直しをおこなう。	①年間の生活指導件数が減少したか。また、個別の指導が適切に計画・実行され、その後の生徒の行動変容につながったか。職員に支援についての具体的方策が身についたか。 ②入部率が目標を達成できたか。部活動総点検の結果を環境整備に活かすことができたか。 ・生徒会会則の見直しを行うことができたか。	①きめ細かく生活指導に組織的に取り組み、問題行動の予防に努めることができた。延べ人数は増加したものの、指導件数は26件に減少した。必要に応じてSCや児童相談所などと連携して問題解決に努めた。多くの生徒は規範意識を向上させて学校生活を送ることができた。 ②入部率は約35%と例年と変わらない数値であった。 ・部・同好会設立に関する生徒会会則の変更は年度末に生徒総会(評議会)に図って決定する。	①問題の事案に応じて警察や外部の支援機関との適切な連携を検討していく。また保護者・生徒の変化に伴い、さらに丁寧な対応のために、情報の共有は今まで以上に必要である。SCの活用も定着してきた一方、時間数が足りない状況が続いている。 ②中学校との交流会を開催する部活動が増えているので解決のきっかけとしていく。 ・部活動が増えても生徒会費が逼迫している中で、部活動費の減額を回避するための方策を考える。	①SCを活用できる時間が足りないのであれば、要求していくことが必要だ。区役所の福祉部門との連携も検討してほしい。 ②来年度の新入生は中学校では、コロナ禍で部活動の機会が十分でなかった子たちである。高校では十分な環境を提供してあげてほしい。入部率とともに定着率が改善されるとよい。	①指導件数は減少したものの、繰り返して指導を受ける生徒の問題など改善すべきこともある。SCは時間枠が埋まる状況が続いているが、カウンセリングの需要はさらに高まっている。SSWにつながる事案も一部教員が肩代わりしている。 ②入部率と定着率について改善の余地がある。	①生徒の実情に合わせた指導マニュアルについて、現存するルールを再検証し、見直しを行う。SCやSSWとの連絡相談体制を構築する。外部機関との連携についても事案ごとに検討する。 ②部活動見学週間に各部の説明会や体験会を開催する。各部の実情を踏まえ活動しやすい環境整備に努める。
3 進路指導・支援	○多様な進路希望の生徒にきめ細かく対応するため、3年間体制を充実させる。	①生徒の進路希望を実現するために、進路行選択への意欲を向上させ、また基礎学力の定着と家庭での学習の習慣化を図る。	①総合的な探究の時間を通して、生徒の進路選択への意欲を高める。 ・家庭学習の習慣化を達成するために学習計画表を作成させ、学習の計画と振り返りを実施させ計画通りに学習等を進める習慣の定着	①総合的な探究の時間の学びを通して、生徒の進路選択に向けた意欲を高め、進路に向けた活動を促進することができたか。 ・家庭学習の習慣化を目標とした学習計画表を作成し、家	①総合的な探究の時間は、学年ごとに計画的に進行できた。各学年とも工夫された内容で、「生徒による授業アンケート」の「学ぶことに興味や関心を持	①毎年、総合的な探究の時間は進路に関する時間に利用されている時間が多いが、その中でも工夫をして生徒が興味を持てるように工夫を続けることが大事である。	①引き続き取り組んでほしい。 ②キャリアパスポートについては中学校ごとに違いがあって、高等学校での扱いが難しいところがあるかもしれないが、学	①さらに継続的な取り組みが必要である。卒業していった生徒個々の状況からノウハウを効率よく蓄積し、シス	①総合的な探究の時間について、進路意識をさらに高めるよう説明回答の内容を充実させる。 ②キャリアパスポ

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
		②キャリアパスポートおよび進路活動記録を作成させ、進路活動に活用する。 ③進路に対する取り組みを充実させるため、生徒との面談体制を充実させる。	を図る。 ・基礎力診断テストを活用し、基礎学力の定着を図る。 ②キャリアパスポートを活用し、学期ごとに振り返りの時間を設け、活動記録を作成させて、集計して指導に活用する。 ③基礎力診断テストやキャリアパスポートの集計などを面接で提示する。	庭学習を計画通り行うことができたか。 ・基礎力判断テストの振り返りの時間に結果を分析し指導に生かすことができたか。 ②進路指導・進路活動において活動の記録及びキャリアパスポートを十分活用できたか。 ③基礎力診断テストやキャリアパスポートのデータの集計を適切な形で提示できたか。	「ついでにできた」に肯定的な回答が86.4%であった。 ②キャリアパスポートは学習計画表と関連付けて利用することができた。 ③各種データは、進路から重要情報フォルダにアップする形で提供され、主に担任の進路指導に利用された。	②キャリアパスポートの活用については、十分には活用できてはいないので、工夫が必要である。 ③データの活用は生徒の興味を引く工夫が必要である。	びの継続のために活用してほしい。	ム化することが課題となる ②本校のキャリアパスポートは活用されているが、中学校から引き継ぐところが十分ではない。	ートの利用について、個々の学習歴の振り返りを通して、意識を高められるよう活用する。 ③進路活動の充実に向けて、資料の整備とデータ提供を行う。	
4	地域等との協働	○地域に開かれた学校、地域から信頼される学校をめざし、地域との連携・交流を推進する。	○本校の学校教育活動を活かした学校説明会や体験的な活動を実施し、効果的に地域と本校の連携を図る。 ・地域に開かれた学校として、地域との交流・連携を推進する。	○新型コロナウイルス感染防止策を徹底した上で、学校説明会等を計画的に行う。 ホームページやtwitter等のツールを活用し、効率的に地域へ発信する。 ・感染症対策を徹底し、交流行事を開催する。	○学校説明会等の満足度が高いアンケート結果となったか。 ・交流行事を開催できたか。 また、生徒が積極的に活躍できたか。	○引き続き本校の教育活動を様々なツールを用い、適切に発信して本校への理解を深める。 ・交流行事等を開催し、生徒が積極的に活躍できる場を提供することで地域との連携を深める。	○来年度は、コロナ前の状況に戻ることを期待できる。高齢化する地域の実態もあるため、地域社会の担い手として中学校や高校との連携を期待したい。	○アンケートからは満足度が高いと判断できた。学校説明会については、充実に向けて継続的な取り組みが必要である。 ・行事は実施できたが、規模を拡大できるかが課題である。	○学校の広報活動をさらに充実させ、twitterやHPのアクセス数や説明会の参加者が増加するように努める。 ・制限緩和を視野に入れながら、交流行事の充実を努める。	
5	学校管理 学校運営	①生徒が安全で安心して生活できる教育環境・教育体制の管理に努める。 ②教員の働き方改革を推進するために、学校運営協議会と協働した組織的な学校運営や校務の効率化を推進する。 ③事故・不祥事の防止を徹底する。	①生徒一人一人が、安全で安心できる環境を整える。 ②効率化に向けた業務改善を組織的に取り組む意識を高め、負担軽減につなげる。 ・校務を効率化できるよう、備品等の整備に努める。 ③職員の当事者意識や高い倫理観を養うことはもとより、日々職員間の同僚性を高めることによる体制の確立に努める。	①多様化する生徒に対し、適した教室の配置・校舎内の整備に努める。 ・DIG(災害図上訓練)訓練を実施できるよう、教員向けの研修を行う。 ②効率化に向けた業務改善を組織的に取り組む意識を高め、個人やグループで所有している具体的な取組ポイントを共有する。 ・Chromebook、プロジェクトタ、スクリーン等、多くの備品を円滑に活用できるよう管理に努める。 ③定期的な不祥事防止会議や研修会を持ち内容の充実を図る。また同僚性を高めるために、グループリーダーや中核の教員が中心となり、積極的に声掛けを行い、一人が孤立しない、職員間で相談できる風通しの良い職場作りを行う。	①多様化する生徒に対し、適した教室の配置・校舎内の整備に努めたか。 ・DIG(災害図上訓練)訓練を実施できるよう、教員向けの研修ができたか。 ②業務の効率化を職員が自覚でき、ストレスチェックの結果に改善が見られたか。 ・Chromebook、プロジェクトタ、スクリーン等、多くの備品を円滑に活用できるよう管理できたか。 ③定期的な研修等を積み重ねることで、不祥事防止につながったか。日々の職場の雰囲気づくりの中で、相談しやすい職場になり、同僚性が高まったか。	①多様化する生徒に対し、学年を越えた教室配置に協力してもらう等、環境を整えることができた。 ・PCを活用した教員向けのDIG(災害図上訓練)研修の予定だったが、実施できなかった。 ・身体的配慮の必要な生徒の状況を鑑み教室のフロアを低階に変更した。 ②企画会議や衛生委員会で話題にし、GLを中心に業務改善に取り組む意識付けを行った。職場でのコミュニケーションが増えたことでストレスチェックで総合健康リスクが昨年103→今年95に改善された。 ・授業等において多くの備品が使用され、適切に管理がなされた。 ③定期的な不祥事防止会議を開くことができ、事故不祥事の防止につながった。ストレスチェックで職場の支援に対する数値が8ポイント改善した。	①次年度以降、インクルーシブに対応した配置も考えていく必要がある。 ・教員向けDIG(災害図上訓練)研修については、1時間の授業の中で収まるように内容を検討する必要がある。 ・今後配慮の必要な生徒が複数出た場合にも対応できるような体制を作り、校舎内のバリアフリー化を推進していく。 ②勤務時間外の超過勤務職員に対して働きかけを行い、また個人だけでなくグループや学年などで組織的に改善できる方法を模索する。 ・ICT関連の備品を管理することができたが、インクルーシブに向け、それらを各クラスに常設できないかの検討が必要である。 ③不祥事防止会議を継続して行う必要がある。職場の雰囲気作りも継続的に行うことが重要である。	①保土ヶ谷高校らしいインクルーシブ教育を期待したい。 ・防災について、地域との連携を進めてほしい。 ②超過勤務の実態から、負担の軽減を踏まえて、様々な取り組みを進めてほしい。	①全体の賛同を得ながら、フロアの学年配置について検討することができた。インクルーシブに向けた取り組みとしてさらに検討が必要である。 ・DIGが実施できるかが課題である。 ②業務の効率化は今後も課題である。進行管理と業務アシスタントが有効に活用できるかが課題となる ・ICT機器の整備については、瀬谷西高校の遊休物品の活用なども行ってきたが、十分な授業環境ではないことが課題である。指していきたい。 ③不祥事は防止できたが、超過勤務多い傾向がある。	①インクルーシブ教育の視点を踏まえた環境整備を行う。 ・防災意識の向上を目指しDIG(災害図上訓練)の実施や地域との連携について検討する。 ②進行管理を意識し、業務アシスタントの有効活用などを通して業務効率の改善されるよう努める。 ・ICT関連備品の整備に努め、授業環境を改善する。 ③不祥事防止会議を定期的に開催する。同僚性が高まるよう、風通しの良い職場づくりに努め、超過勤務時間数を改善させる。